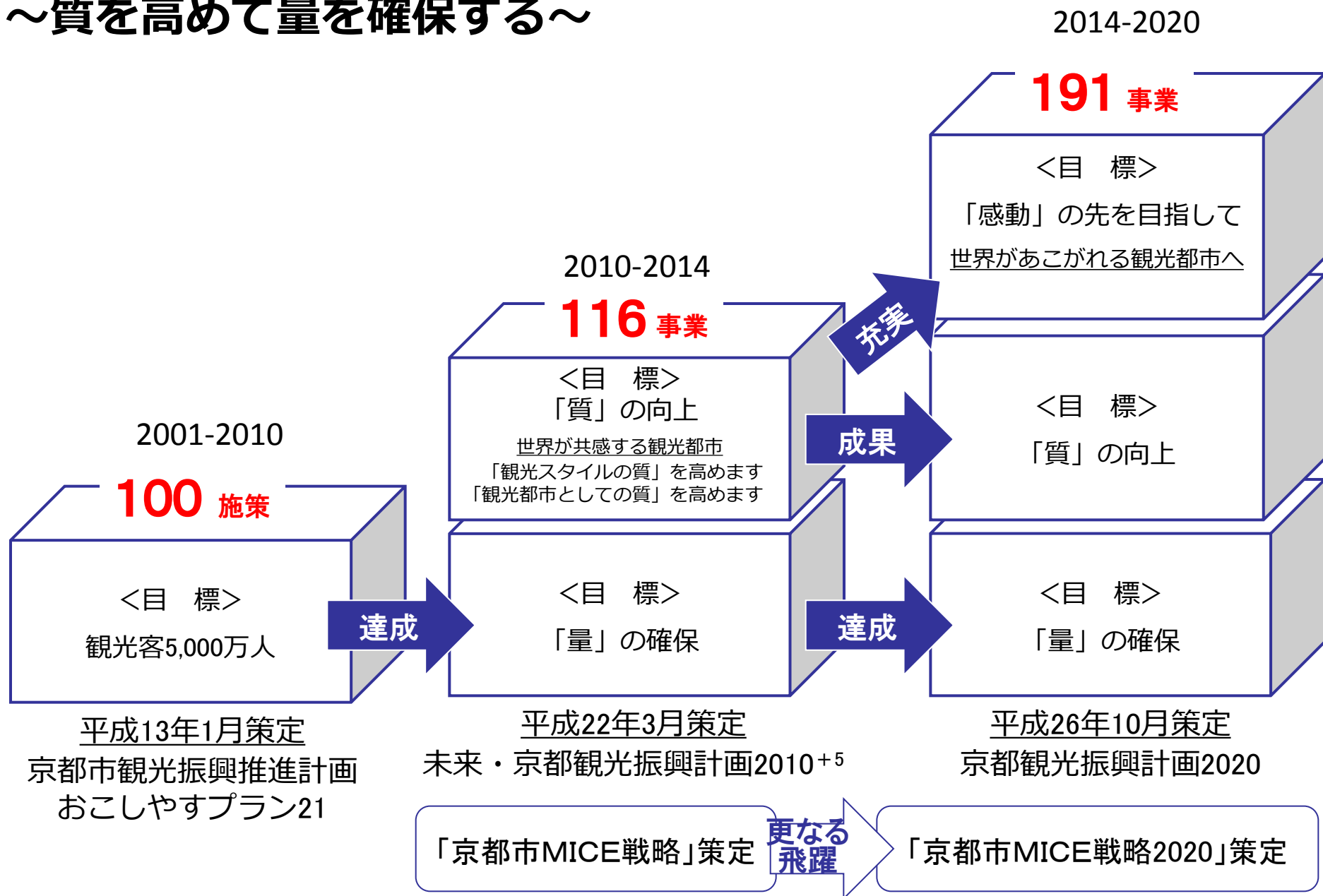




京都観光の現状と取組

近年の京都市の観光施策の変遷

～質を高めて量を確保する～



京都観光振興計画2020～世界があこがれる観光都市へ～

基本理念

- 世界中の人に京都に行きたいという「あこがれ」をもったいただき**尊敬される京都**を目指します
- 丹精込めた「おもてなし」により、京都を訪れた方々に、多くの**感動を届けます**
- 市民、社寺関係者、文化関係者、観光関連業界、地元企業、大学・学生、観光客など、**京都を愛する皆様とこの計画を共有し、心を一つにして実現に取り組みます**

2020年の観光都市像

- 多様な景観資産、自然景観と文化資産を守り、育て、創造的に活用を進めるまち
- 旅と暮らしの安心・安全が世界一しっかりと守られているまち
- ひとと公共交通を優先する、歩いて楽しいまち
- 市民ぐるみで観光客の皆様をあたたかくお迎えする、おもてなしのまち

計画目標

京都を再び訪れたい
再来訪意向

毎年着実に100%へ

親しい友人に
京都観光を勧めたい
紹介意向

毎年着実に100%へ

「京都のおもてなし度」
毎年着実に100%へ

「大変そう思う」を80%以上に

外国人宿泊客数
年間300万人

京都の観光消費額
年間1兆円

**「誰もが安心安全に、笑顔で楽しく暮らし、観光できる、やさしさあふれるおもてなしのまちづくり」を進め、
50年後、100年後も世界の京都として輝き続けるよう力強く取組を推進**

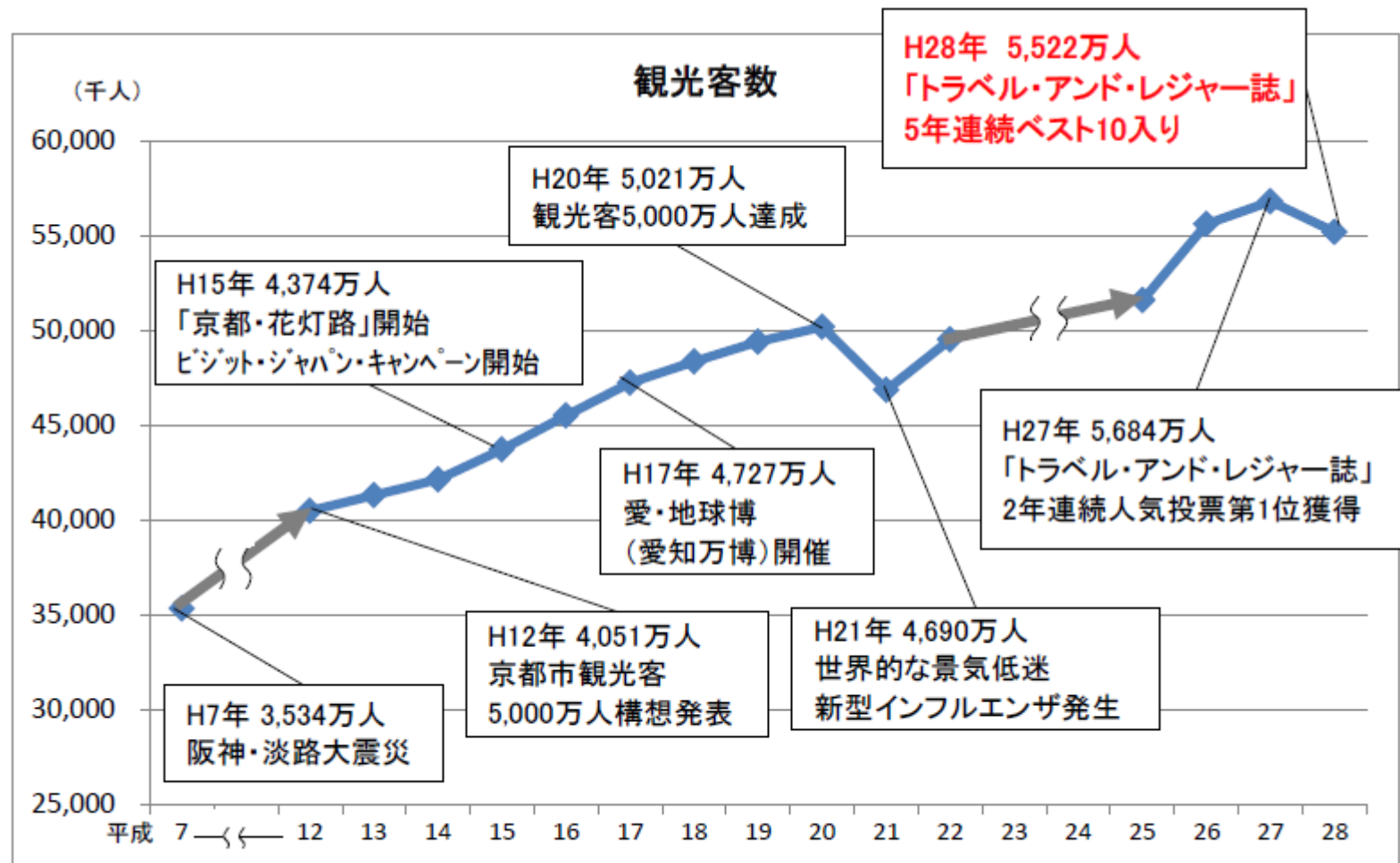
観光に取り組む意義
文化・景観 交流 経済

住民にとって住みやすいまち

観光客にとっても満足度が高いまち

京都市の観光客数（2016年）

3年連続で5, 500万人台を維持し, 5, 522万人に



外国人急増による課題 混雑

京都観光の個別残念度(日本人)

	H28	H27	H26
人が多い, 混雑	15.0%	13.8%	10.3%

京都観光の個別残念度(外国人)

	H28	H27	H26
人が多い, 混雑	5.9%	6.4%	7.8%

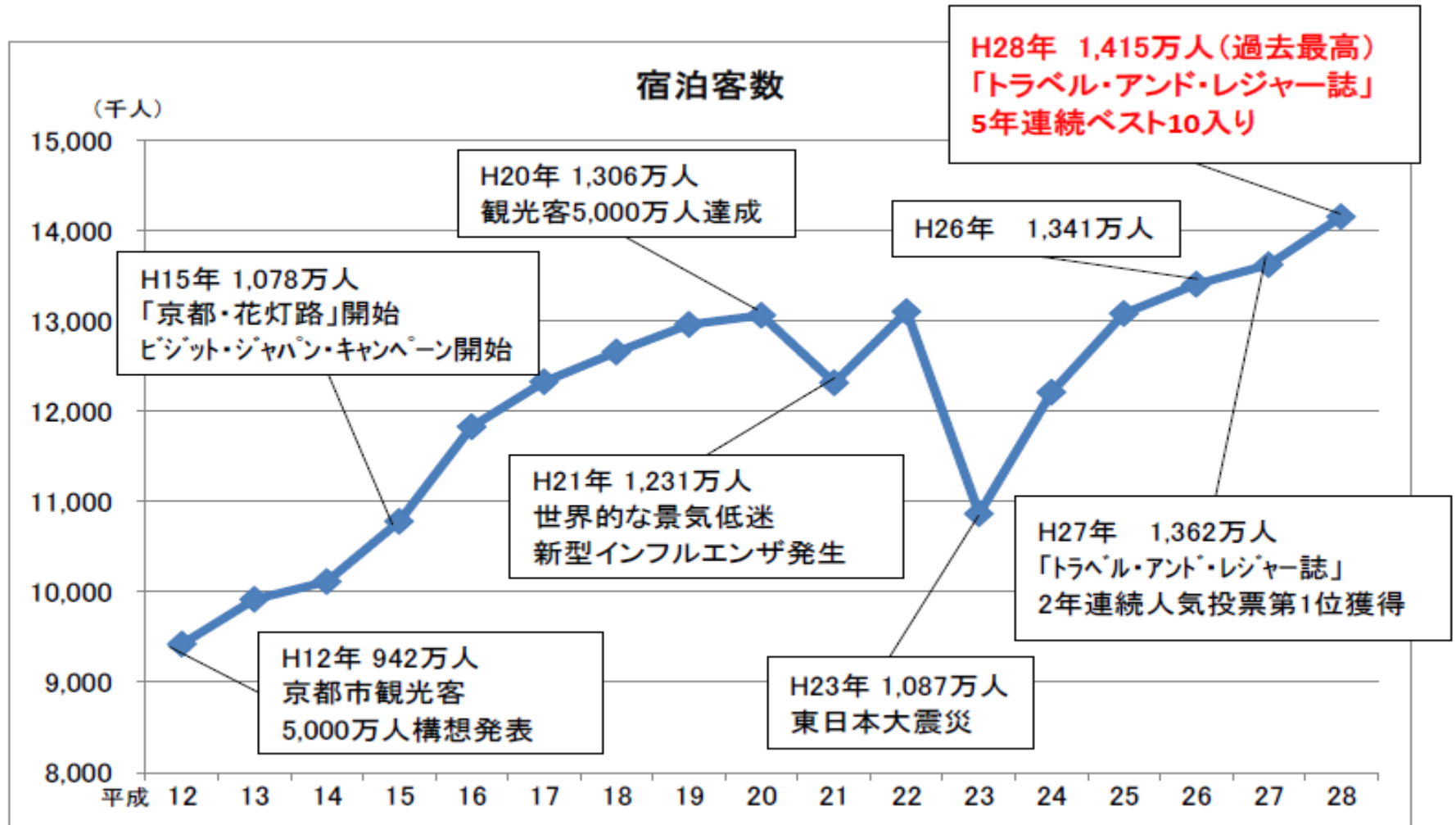
外国人観光客の市内訪問地(複数回答)

	H28	H27	H26	トリップアドバイザーランキング(※)
清水寺	67.7%	65.0%	64.4%	2014年7位, 2016年10位, 京都観光ランキング4位 行ってよかった! 日本の展望スポットランキング1位
金閣寺	49.5%	53.7%	54.0%	2014年4位, 2015年11位, 2016年8位, 京都観光ランキング2位
二条城	50.9%	49.9%	47.4%	2014年17位 京都観光ランキング10位
祇園(ギオンコーナー)	50.5%	49.1%	31.3%	京都観光ランキング11位
伏見稲荷大社	43.3%	41.4%	35.8%	2014年1位, 2015年1位, 2016年1位, 世界の人気ランドマーク25位 京都観光ランキング1位
嵐山・嵯峨野	31.2%	33.0%	32.5%	2014年14位(いわたやま), 2015年28位, 京都観光ラ ンキング12位
京都御所	23.0%	29.9%	27.2%	
銀閣寺	25.4%	28.8%	30.3%	京都観光ランキング8位

(※)トリップアドバイザー 外国人に人気の日本の観光スポットベスト30, 人気のある京都市の観光名所

京都市の宿泊客数（2016年）

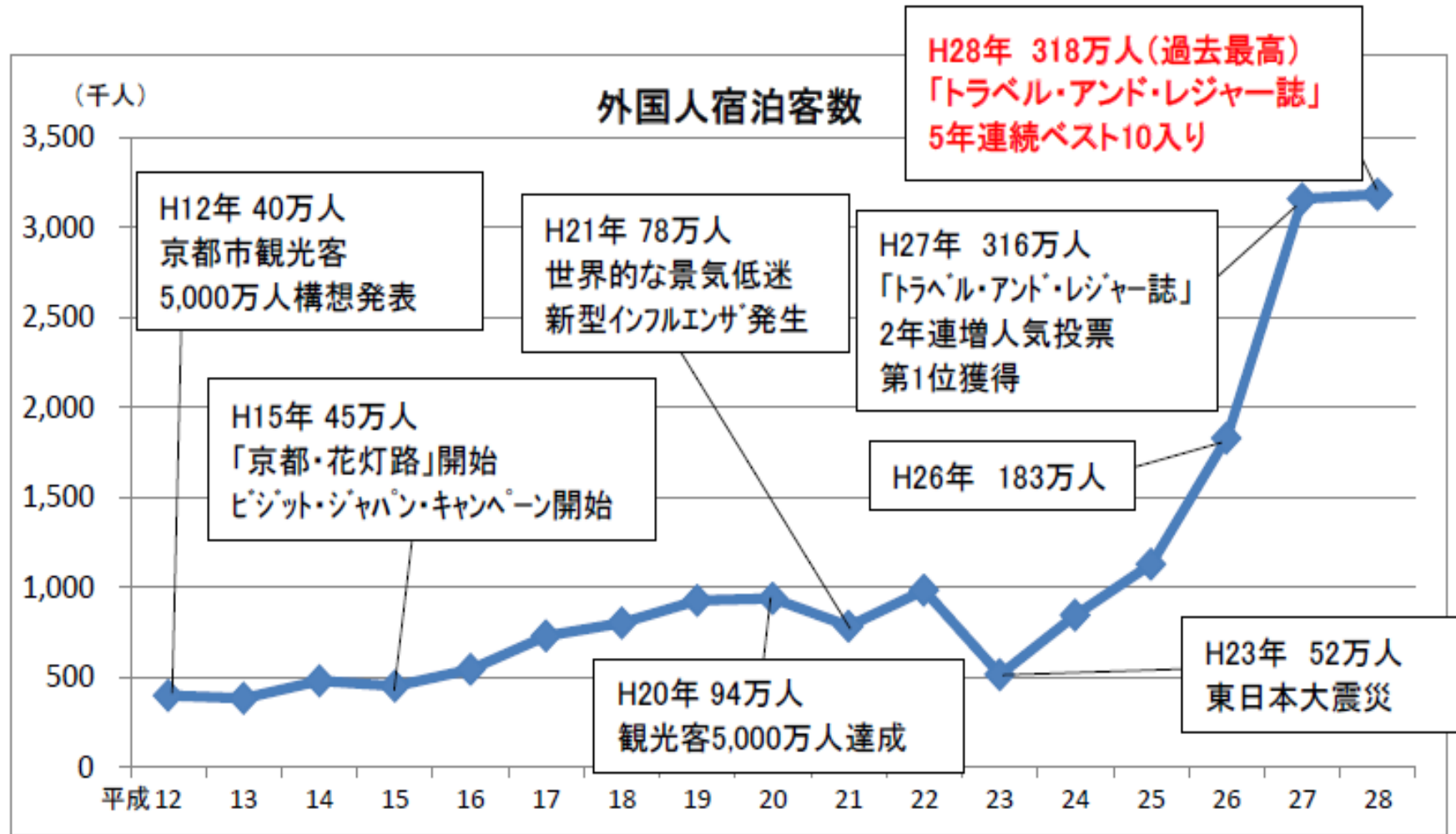
前年から53万人、3.9%増加し、過去最高となる1,415万人に



※無許可民泊施設での宿泊客数は含まれていません。

京都市の外国人宿泊客数（2016年）

2年連続で300万人を突破し，過去最高となる318万人に



※無許可民泊施設での宿泊客数は含まれていません。

京都市の観光客数等の内訳の推計（2016年）

宿泊客（日本人・外国人），外国人日帰りは増加

日本人日帰り客が大きく減少

(H27)

	日本人観光客	外国人観光客	計
日帰り客	4,156万人	166万人	4,322万人
宿泊客	1,046万人	316万人	1,362万人
合計	5,202万人	482万人	5,684万人

※外国人観光客については，京都府訪問者＝京都市訪問者とみなして推計

(H28)

	日本人観光客	外国人観光客	計
日帰り客	3,764万人 (9.4%減)	343万人	4,107万人
宿泊客	1,097万人	318万人	1,415万人
合計	4,861万人	661万人	5,522万人

※訪日外国人旅行者の京都府訪問者数推計（訪日外客数×京都府訪問率）

H27 1974万人×24.4%＝482万人

→ H28 2404万人×27.5%＝661万人 前年比37.1%増

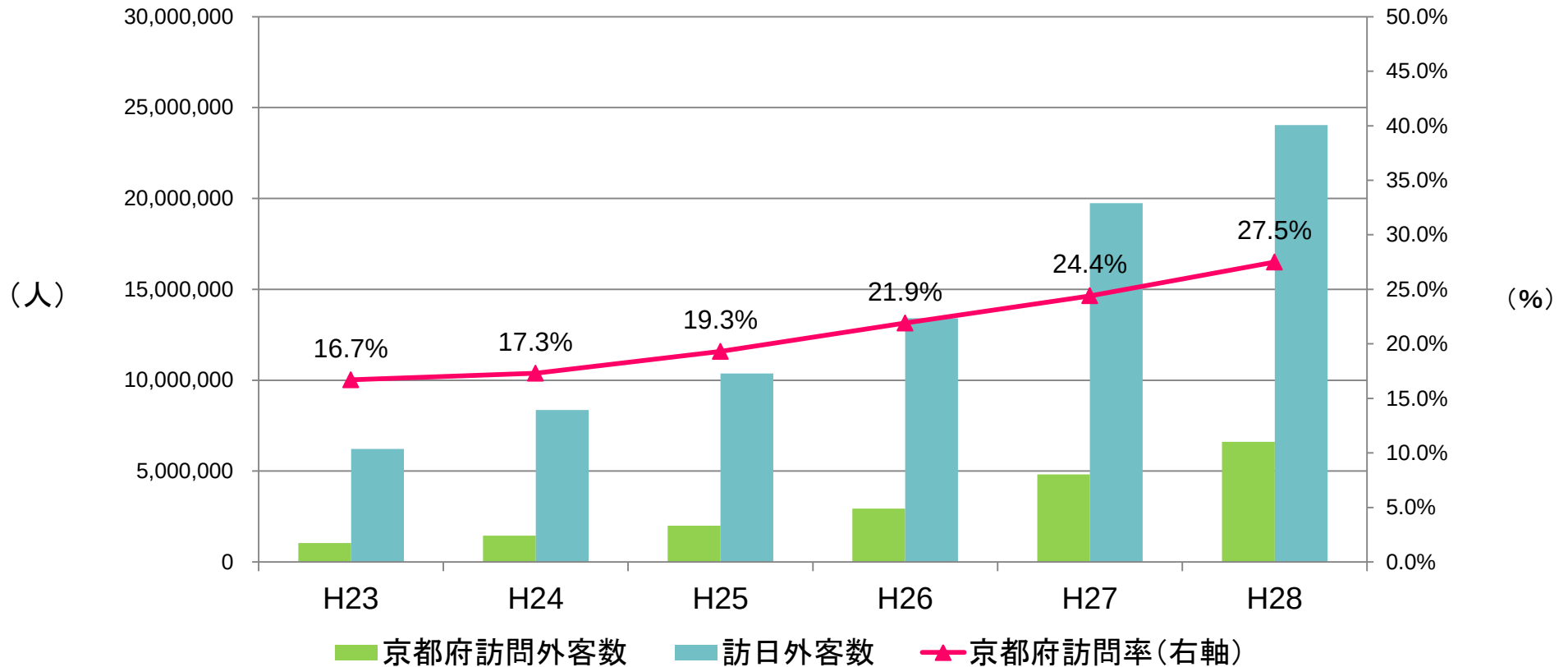
出典：JNTO「訪日外客数」，観光庁「訪日外国人の消費動向調査」

* 日本への訪日外客数の増加率 21.8%

訪日外客の京都府訪問率の推移

京都への外国人客の訪問率は年々増加。

H23は訪日外客の6人に1人が京都に来ていたが、H28は3.6人に1人が入洛。



※訪日外国人旅行者の京都府訪問者数推計 (訪日外客数×京都府訪問率)

H27 1974万人×24.4% = 482万人

→ H28 2404万人×27.5% = 661万人 前年比37.1%増

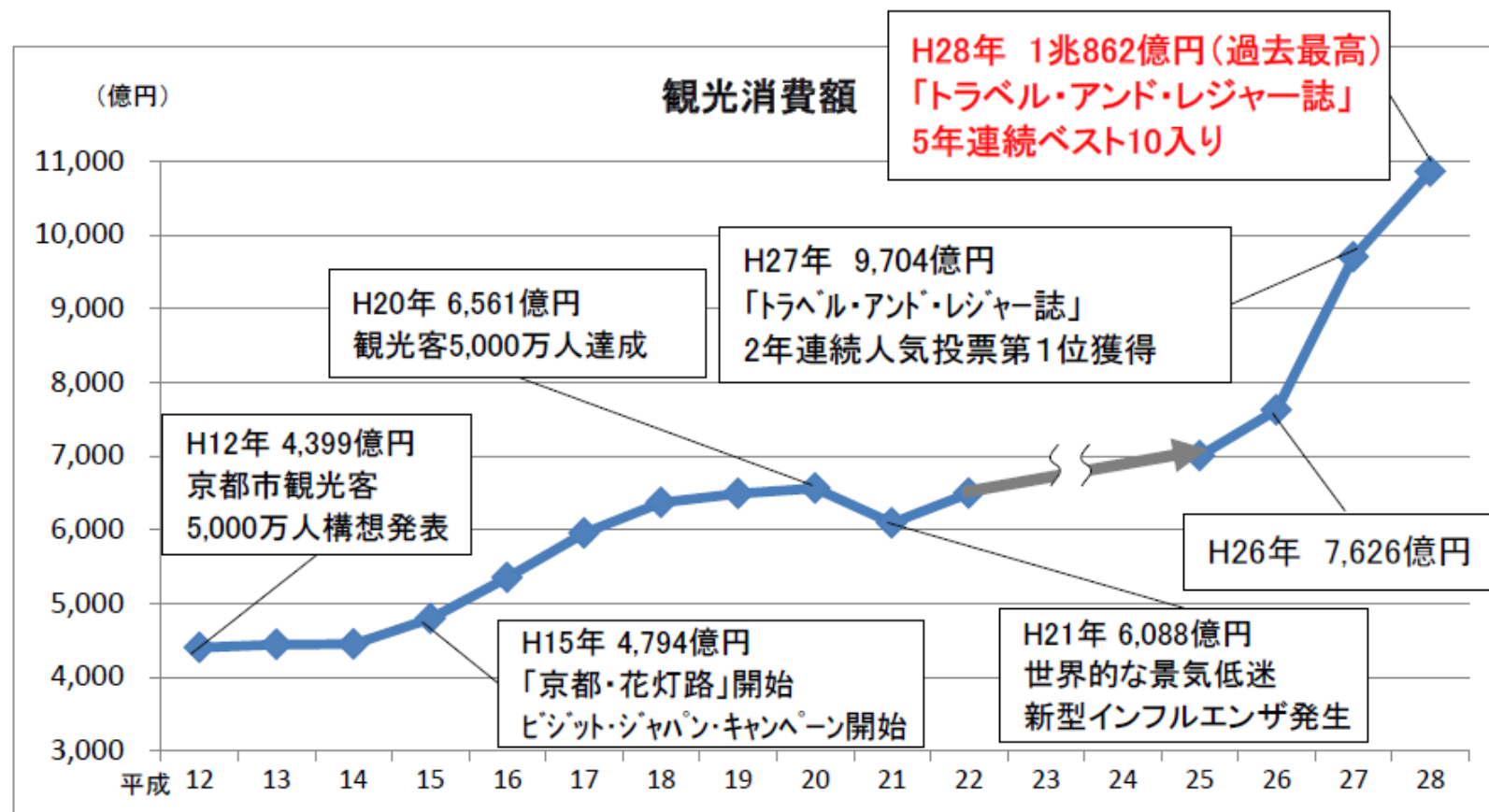
出典：JNTO「訪日外客数」、観光庁「訪日外国人の消費動向調査」

* 日本への訪日外客数の増加率 21.8%

京都市の観光消費額（2016年）

対前年比11.9%増の過去最高額。

2020年目標の「観光消費額1兆円」を4年前倒しで達成！



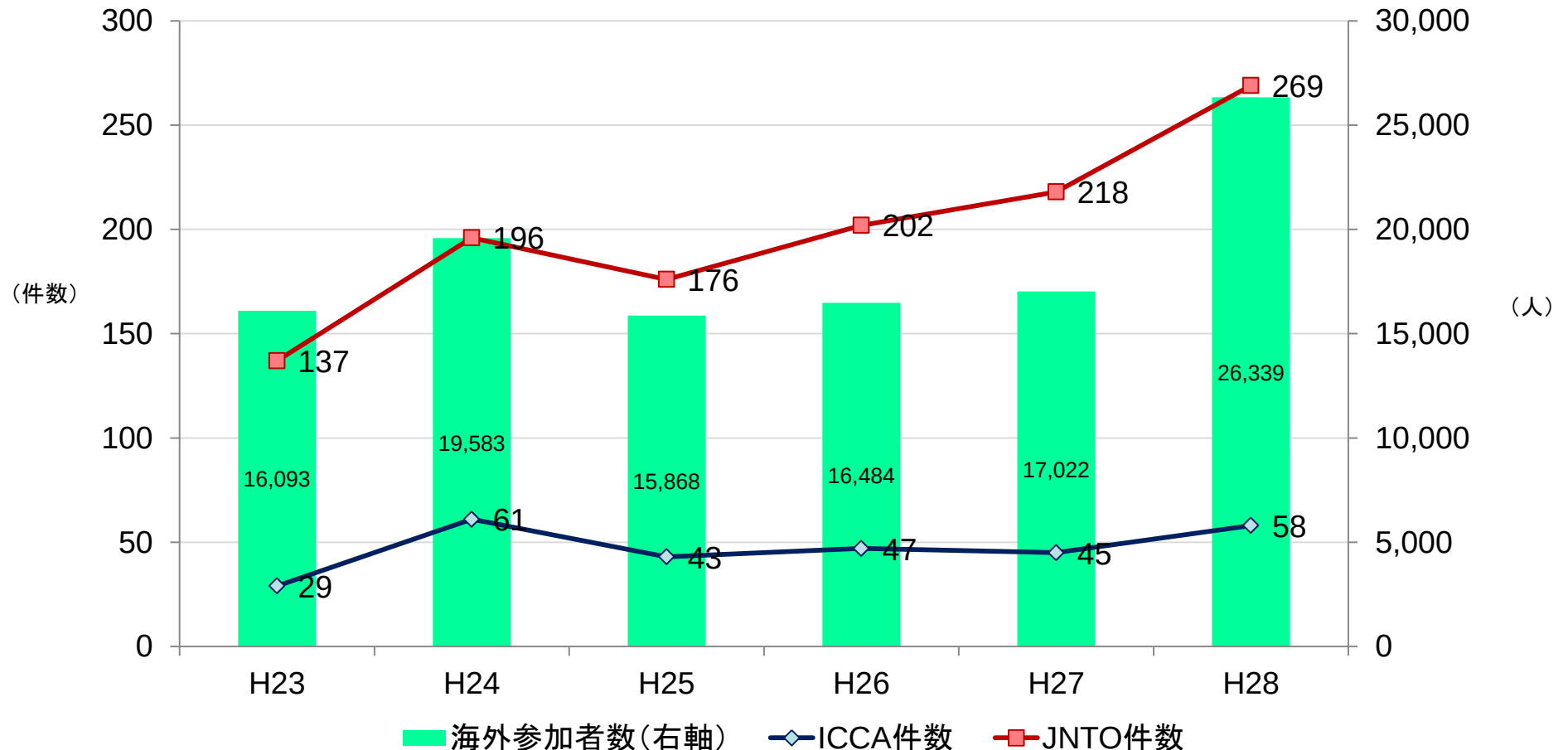
(注意) 平成23年及び平成24年は調査手法の変更により観光客数を推計していないことから、観光消費額の総額を算出できません。

京都市の国際会議開催件数の推移

国際会議開催件数，海外参加者数，ともに過去最高

国際会議参加者は，観光客より観光消費額が多いと言われている

※日本人の場合は1.4倍，外国人の場合は1.8倍（京都市調べ）



外国人観光客の今後の見込み

1950年
2500万人

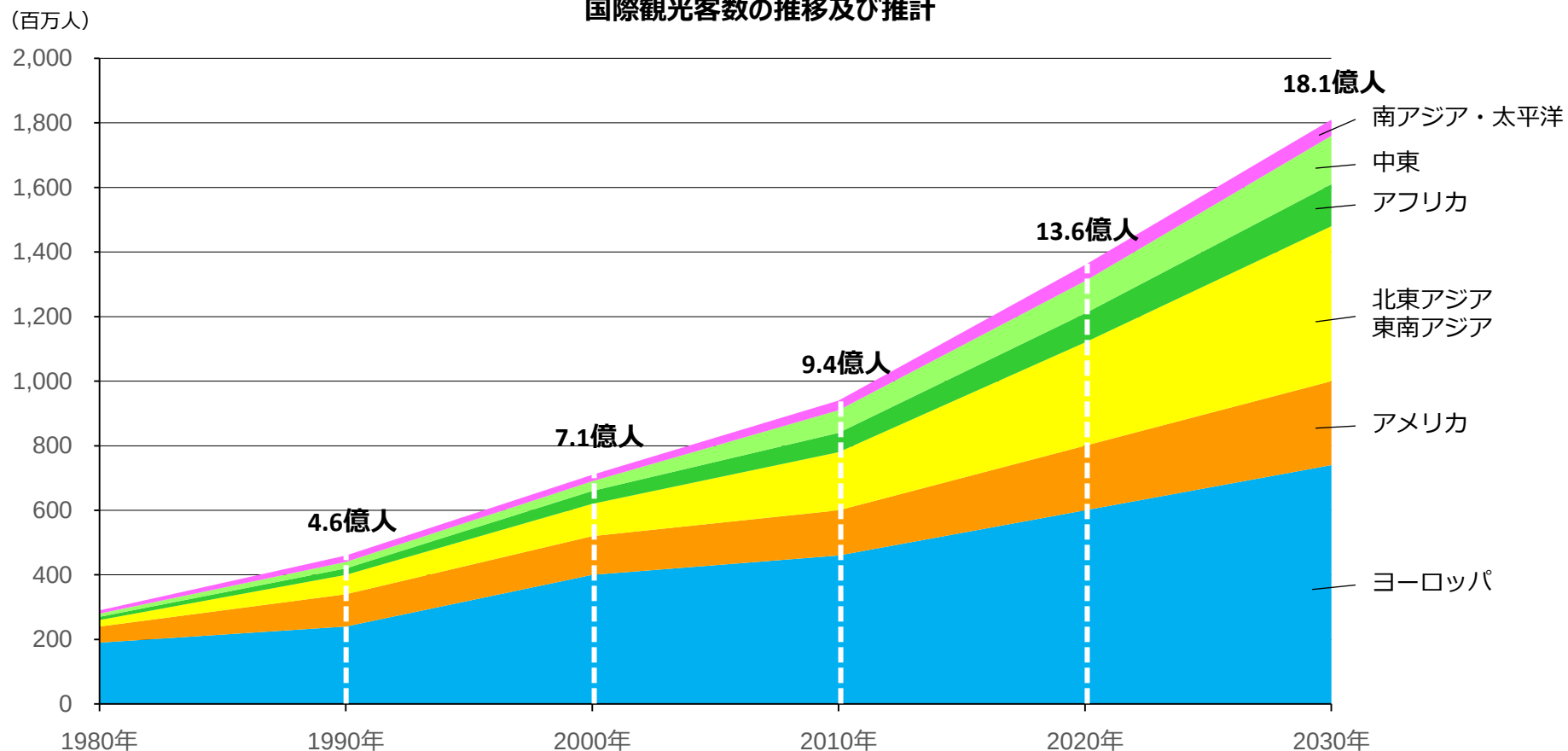


2016年
12億3500万人



2030年
18億人？

国際観光客数の推移及び推計

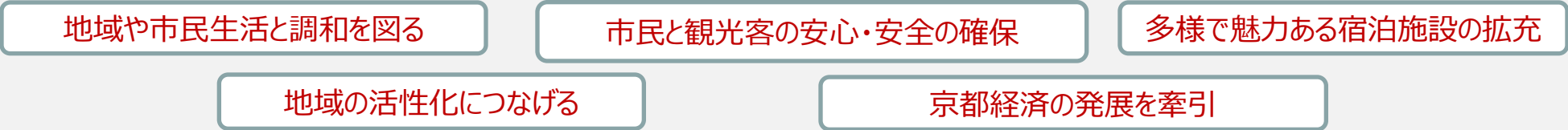


京都市宿泊施設拡充・誘致方針（平成28年10月策定）

～観光立国・日本を牽引する安心安全で地域と調和した宿泊観光の向上を目指して～

本市の宿泊政策における基本的な考え方

宿泊の質を高め、観光の質を高めることが、量の確保につながる
→多様な観光客のニーズに対応する、様々なタイプやグレードの宿泊施設の拡充・誘致により、全体的な質を高め、裾野を広げる。



今後の見通し

国は、2020年の訪日外国人旅行者数目標を平成27年の2倍の4,000万人に設定。それに伴って、本市への外国人宿泊客数も約440万人～630万人に増加すると試算している。この人数を受け入れるためには、平成32年までに少なくとも10,000室分の宿泊施設が新たに必要となる。

宿泊施設の拡充・誘致に対する取組

- ①旅館・ホテル等誘致総合窓口
- ②市内全域での宿泊施設の拡充
- ③上質な宿泊施設の誘致
- ④旅館の利用促進
- ⑤表彰制度の創設
- ⑥担い手育成支援
- ⑦周辺自治体との連携

平成29年5月
「上質宿泊施設誘致制度」を創設

「民泊」に対する考え方及び取組

考え方

- 「民泊」については、**市民と観光客の安心安全を確保するとともに、周辺住民の生活環境との調和を図ることが重要である。**
- 本市の「民泊」は宿泊施設不足への対応や不動産の活用の手段というより、京都における新しい宿泊観光コンテンツとして位置づけ、京都らしい良質な「民泊」（**「京都の暮らし」の体験やホームステイによる市民との交流など付加価値を持つもの**）を推進していく。

「民泊」に対するこれまでの取組

- 「民泊」対策プロジェクトチームの設置（平成27年12月1日～）
- 京都市民泊施設実態調査の実施（平成28年5月9日）
- 「民泊通報・相談窓口」の設置（平成28年7月13日～）
- 「京都市宿泊施設拡充・誘致方針」の策定（平成28年10月31日）
- 「京都市旅館業施設における安心安全及び地域の生活環境との調和の確保に関する指導要綱」の策定（平成28年12月1日から実施）
- 「民泊」対策に特化した専門チーム（18名）の設置（平成29年4月1日～）
- 違法な「民泊」施設の適正化指導の強化に向けた民間委託による調査の開始（平成29年6月～）
- 京都市内の分譲マンション管理組合約1,700件に民泊に関する管理規約の見直しを周知（平成29年8月～）（11月22日時点で3回実施）
- 「京都市にふさわしい民泊の在り方検討会議」の開催（平成29年9月～11月）
- 「民泊」対策専門チームに2名の増員及び条例の制定と施行に向け、4名を新たに配置するなどの体制強化（平成29年10月）
- 京都市京町家の保全及び継承に関する条例及び京都市宿泊税条例の議会での可決（平成29年11月）
- 京都市の「民泊」の適正な運営等に係る新たなルール（案）に関する市民意見を募集中（平成29年12月5日～30年1月12日）
- 京都市住宅宿泊事業の適正な運営を確保するための措置に関する条例 平成30年2月23日可決**

平成28年7月に全国に先駆けて開設。
これまでに2,800件を超える苦情に対し、
3,490回に及ぶ現地調査を実施し、
343箇所を営業中止に。

集中から分散へ

3つの集中の是正

①時間（朝観光・夜観光） ②季節（閑散期対策） ③場所（特定のポイントの集中）

■ 時間帯の分散

朝観光・夜観光の推進



■ 季節の分散

観光キャンペーンの実施



花灯路・京の七夕



京都レストランウィンタースペシャル



■ 場所の分散

地域と事業者とのマッチング



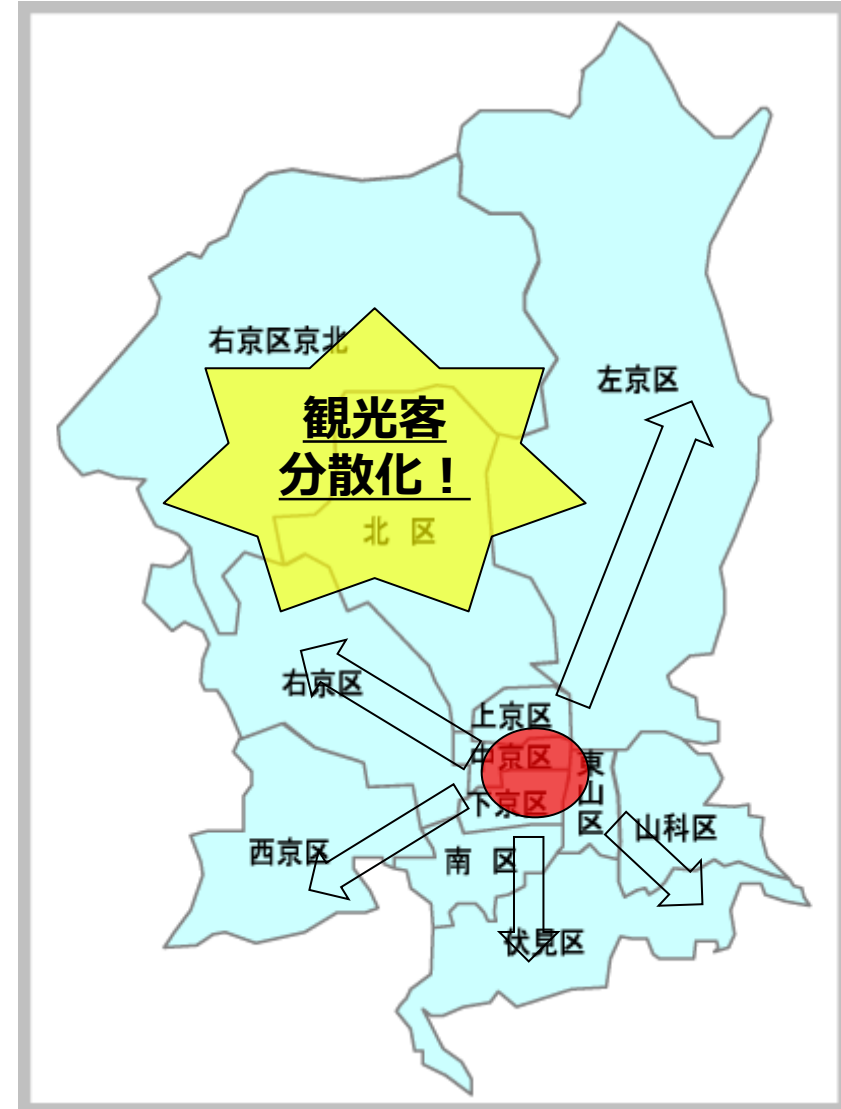
各エリアの魅力発信

例) 京都駅西部エリア

- ・鉄道博物館
- ・京都水族館
- ・梅小路公園
- ・中央卸売市場
- ・東本願寺・西本願寺, 東寺, 壬生寺
- ・島原, 角屋

観光客のエリアの分散化～観光客分散化部会～

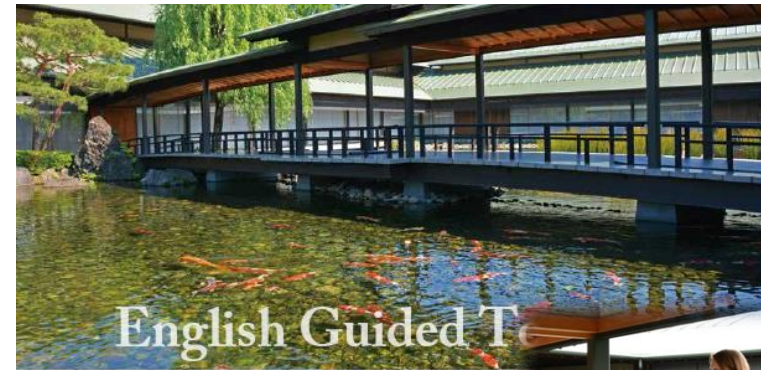
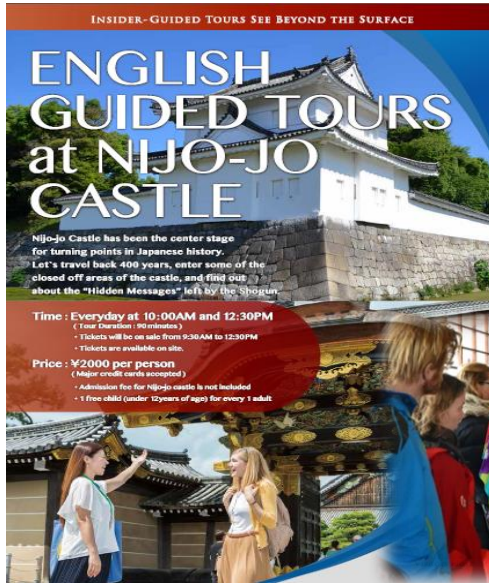
- 多様なエリアの奥深い魅力を発掘・発信し、市内全域への観光客の分散化と地域の活性化を目指すことを目的に、市内に「**観光客分散化部会**」を設置。
部会では、**各地域の主体的な取組みと事業の推進を支援**する。
- 分散化が想定されるエリアごとに、地元の意向を踏まえた上で、地元関係者、民間事業者、DMO、市内関係者及び地元区役所、観光MICE推進室を構成メンバーとする「プロジェクトチーム」等を通じて、推進する。



伝統文化を基軸とした体験型メニューの拡充

○京都市認定通訳ガイドによる着地型ツアーの拡充（時間の分散・場所の分散）

- ・二条城，京都迎賓館，京都遺産，伝統産業の工房，商店街，酒蔵etc



Kyoto State Guest

Open regularly except Wednesday

*Opening times may be subject to sudden change, please check the website

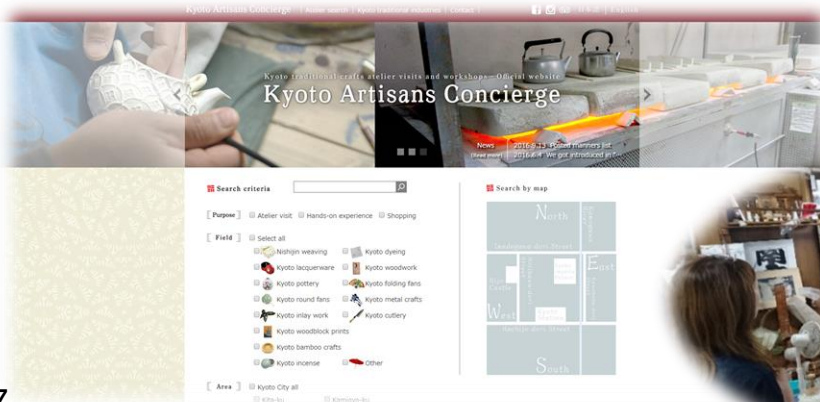
12:00 noon - 1:00 pm

Please arrive by 11:30 am (30 minutes before the tour)

Time required: Around 90 minutes (Including meeting time)



○京都工房コンシェルジュ <http://www.kyotoartisans.jp/en/>



観光の経済効果を市民生活の向上につなげる

市民の安定的な雇用・所得の向上へ
観光施策で好循環を生み出す！

海外富裕層の誘致で強力に牽引
修学旅行は、将来の京都ファン・リピーター

- ・観光消費の増加
- ・繁閑差の縮小
- ・長期滞在の促進

- ・観光産業等の人材育成
- ・労働生産性の向上



74の伝統産業



免税店支援



新たな魅力創出



花灯路



VISAとの連携協定



フォーリンフレンドリータクシー



京都観光の未来を支える担い手育成



京都市認定通訳ガイド



上質な宿泊施設

(参考)宿泊税の導入について

京都に求められる役割

京都ならではの歴史や自然・文化を守り、創造し未来へ引き継ぐ
⇒都市の品格と魅力を高めていくため、様々な取組の更なる推進が必要

財源確保の必要性・負担の在り方

入洛客の増加等により、受入環境整備や交通渋滞対策などの課題 ⇒ 市民生活にまで影響を及ぼすものも

行政サービスの一層の充実を図るため、受益と負担の関係から、入洛客にも一定の負担を求めることには合理性がある

- ・滞在時間が長く、行政サービスの受益の程度が大きい
- ・滞在中の消費額が比較的大きい
- ・宿泊施設及び宿泊客の把握が可能 であることなどから

宿泊税の導入を決定

※昨年11月 議会で条例可決

○ 制度概要

納税義務者

ホテル、旅館、簡易宿所のほか、いわゆる違法民泊等も含めた、すべての宿泊者

税率

宿泊料金	税額
20,000円未満	200円
20,000円以上50,000円未満	500円
50,000円以上	1,000円

※ 修学旅行生等については課税を免除

○ 使途

- 住む人にも訪れる人にも京都の品格や魅力を実感できる取組の推進
例:文化財保護や歴史的景観の保全、快適な歩行空間の創出、観光や文化の担い手の育成
- 入洛客の増加など、観光を取り巻く情勢の変化 に対する受入環境の整備
例:入洛客の安心安全の確保、観光案内標識の整備、観光地トイレの拡充
- 京都の魅力の国内外への情報発信の強化

※ 近年課題となっている「京町家の保存・継承」、「道路の渋滞や公共交通機関の混雑対策」、「違法民泊の適正化」などについても、宿泊税を財源として、今後、取組を進めていく予定

○ 施行期日

平成30年10月1日

※ 平成30年2月9日に、総務大臣から宿泊税新設の同意を得る。

(参考)平成30年度宿泊税を財源として充実・強化する取組

現在の観光課題を早急に解消し、市民生活との調和を図る取組に優先して充当

事業経費 37億円
うち 充当額19億円（徴税システム改修費2億円含む）

①混雑対策

京都市を訪れる観光客が一部観光地に集中し、観光地周辺や公共交通機関の混雑につながっているため、これらの課題を解消するための取組を充実・強化 **5億円**

②民泊対策

昨今、急増している民泊については、利用者の騒音やごみ投棄などにより、周辺地域の市民生活に影響が生じており、違法・不適切な民泊の通報・監視・指導等の体制を強化 **1.5億円**

③宿泊事業者支援

宿泊税の導入にあたっては、宿泊事業者の協力が不可欠であり、宿泊事業者への負担軽減策や経営強化に向けた支援策を実施 **0.5億円**

④受入環境整備

観光インフラの整備（利便施設の多言語化、観光トイレ等の拡充）や観光客のマナー対策などが課題となっており、これらの受入環境の整備により、市民生活の満足度も高めていく **4億円**

⑤京都ならではの文化振興・美しい景観の保全

京都に蓄積された日本の歴史・文化、これらが織りなす景観を次の世代にしっかりと引き継ぎながら、京都の都市の品格、魅力を一層向上させる施策を推進 **6億円**